

学校教育目標 「つよいきずなで よさをのぼそう」
重点目標 「すすんで やる子」



あきらめずにやり続けることの大切さ

校長 望月 秀一

子どもたちの元気の良い声が学校に返ってきました。1年生に転入生の丸山ベアトリスさんが加わり、全校児童190名でスタートしました。この夏には、「雨乞い曼陀羅祭典」「地区夏まつり」「今宮火祭り」などの神戸地区の伝統芸能や行事にふれる機会がたくさんありました。火祭りの時には、地域の方から6年生が下級生に太鼓の叩き方を一生懸命教えている姿にとっても感心したとお話をいただきました。私も火回しに合わせて太鼓を叩く様子を見ていて、とても力強く、自信を持って取り組んでいる姿に頼もしさを感じました。お曼陀羅さんでの太鼓を叩く姿や、子どもみこしを協力して創り上げる姿も同様に、地域で子どもたちを育てていただいていることに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



私たち職員は、この夏「フィールドワーク」として、神戸地区の史跡巡りをしました。仁藤春耕さんの道しるべや今宮浅間神社、荒神社、少年戦車兵殉難石碑、双体道祖神など自分たちの目で確かめ、子どもたちの教材に生かしていこうと学びました。本物にふれたことで、ますます子どもたちに地域の魅力を感じてほしいと思いました。



夏休み明けですので全校集会がありました。私は子どもたちに夏休みだからできることにチャレンジしましたかと問い掛けました。子どもたちからは、「おじいちゃんとうもろこしを作ったよ。」「マリプールで泳いで楽しかった。」「座禅に挑戦したよ。」など元気な声が返ってきました。私は、『富士山へ、0からの挑戦』で富士山に登ったことを話しました。途中、足が痛くて何度もやめようかと思ったけれど、ありが歩く位遅い一歩だけれど、一歩、一歩進んでいけば必ず頂上に着く。その思いで最後まで頑張りぬいたと話しました。「どんなに大変なことでも、あきらめずにやり続ければできるようになる。」目を輝かせて聴いている子どもたちの顔が印象に残りました。また、金子みすずさんの『わたしと小鳥と鈴と』の詩を紹介しながら、「みんなそれぞれ違いがあるけれど、みんな良いところがあり、すばらしい力を持っているので良さを伸ばしていこう。」と話しました。違いを認め合い、相手のことを思いやり、自分を大切にすることと同じように、相手も大切にしてほしい。仲良く楽しい学校生活を送っていこうと呼び掛けました。

最後にご報告が遅れましたが、「黄色い帽子をベトナムに贈ろう」の取り組みにご協力いただきましてありがとうございました。神戸小では23個の帽子が集まり、黄色い帽子を被って嬉しそうにしている子どもたちの姿が報告されました。



今後とも、学校へのご支援、ご協力をいただけますようよろしくお願いいたします。